

ポルトガルの印刷産業

今年のWPCF(World Print & Communication Forum)の会合は、欧州の印刷連合会Intergrafと合同でポルトガルのポルトで開催されました。この会合の中でポルトガルの印刷産業の概要が報告されましたので、それを紹介いたします。

ポルトガルの印刷産業は、企業数2,653社、従業員数25,939人、出荷額22.21億ユーロ(約3,110億円)と、日本の印刷業界がそれぞれ26,145社、311,383人、5.7兆円であることを考えると、ほぼ1/10-1/18といった規模となっている。これはポルトガルの人口が1,065万人、GDPが2444億ユーロ(約34.2兆円)と、各々日本の1/11と1/15程度という事を比べると雇用の面や経済規模におけるそれぞれの国における印刷産業の位置づけは、意外に近いものであることがうかがわれる。ただより詳しく見てみると下記の表のように、印刷産業といっても、印刷とペーパーコンバーティングの両方を含んでおり、純然たる印刷の規模はさらに小さい。

また出荷額で見るとポルトガルの2大都市であるリスボン周辺が全体の37%、ポルト周辺が41%と、この2地域で78%を占めるなど都市型産業である点は日本同様となっている。一方、輸出は2.47億ユーロ(346億円)、輸入2.84億ユーロ(398億円)と、各々出荷額の11.1%と12.8%と、日本の輸出418億円(0.73%)、輸入1,401億円(2.46%)と比べると印刷産業における輸出比率が圧倒的に高いことがわかる。これは陸続きで、かつ共通通貨を使っているユーロ圏では国をまたいだ印刷物の流通が容易で、印刷産業にとっては大きな可能性とリスクを持っていることがわかる。輸出の38%はスペイン向けで、アンゴラ(25%)、フランス(10%)、モザンビーク(5%)、

イギリス(3%)がそれに続く。輸入はスペイン(55%)、ドイツ(11%)、イギリス(10%)、フランス(6%)、イタリア(5%)となっており、EUの有力国からの流入が目立つ。輸出に関してはアンゴラやモザンビークなど歴史的なつながりの強いアフリカへの輸出が多い点は特徴的なポイントといえる。

ポルトガルの印刷連合会APIGRAFは1974年に設立され、会員数は432社を数える。これは企業数の17%ではあるが、出荷額では35%、従業員数では36%を占めている。リスボンとポルトに事務所を構え、専任のスタッフを11名抱えている。

APIGRAFは今後3年間の活動方針として、政府やEUの関連機関に対するロビー活動、輸出の活性化、労使協定の推進、業界の人的スキル向上のための教育プログラムの構築、企業間の協業の促進、市場情報の収集、新規会員の確保、さらにはAPIGRAFを会員企業に対するサービスを提供する組織へ変革することを掲げている。

一時期は経済危機が叫ばれていたポルトガルではあるが、最近はかなり回復基調を示しておりポルトガルの印刷産業にも薄日が差してきているように思われる。ただしポルトガルでも少子化の影響などもあり、書籍市場の減少は続いている。そんな中でも5月28日から6月14日まで2週間以上にわたってリスボンでは第85回Feira do Livro(本祭り)が開催されており、100以上の出版社や書店が中央公園にブースを出して本の販売をしており、市民の生活の中に本がまだまだ根強く息づいていることを伺わせられた。



第85回Feira do Livroのにぎわい

項目	印刷	ペーパー コンバーティング
企業数	2,182 社	471 社
従業員数	16,714 人	9,225 人
1社当たり平均人数	7.7 人	19.5 人
出荷額	9.64 億ユーロ (1,350 億円)	12.57 億ユーロ (1,760 億円)
1社当たり平均売上	44.2 万ユーロ (6,190 万円)	266.8 万ユーロ (3.74 億円)



WPCFとIntergraf合同会議の様子